

第5学年 社会科学習指導案

指導者 教諭 渡辺 直紀
H29研修センター長期研修

1 単元名 水産業のさかんな地域

2 目標

我が国の水産業について、資料や聞き取り調査を基に調べ、我が国の水産業が自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解し、これからの我が国の水産業の在り方について考えるようにする。

3 単元について

(1) 教材観

小学校学習指導要領解説社会編第5学年の内容(2)では、「我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えるようにする。」と示されている。そこで、本単元では我が国の水産業について調べ、それらが自然環境を生かして営まれており、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを考えられるようにする。

(2) 児童の実態

本学級の児童に対して、稲作の学習における社会的事象の意味を考えることの実態調査を行った。単元の社会的事象の意味として考えられる「稲作の社会における働きや国民にとっての役割」を、これまで学習した複数の視点を基に説明することができた児童は*人であった。また、これまで学習したことに基づき、「これからの稲作で大切にすべきこと」について、社会がどんなことを大切にすべきかだけでなく、自分の関わり方についても記述できた児童は*人であった。この調査から、本学級の児童は、社会的事象の意味を考える力に課題があることが分かった。これは、これまでの指導において社会的事象の社会における働きや国民にとっての役割などを捉え、さらに社会の一員として、社会的事象の意味を捉える単元の学習過程の工夫が不十分であったためであると考えられる。

(3) 指導観

本単元では、我が国の水産業の社会における働きや国民にとっての役割を捉えるために、二つの学習問題を設定する。まず、我が国の主な漁港と水産物の産地を調べる学習を通して、「なぜわたしたちはいつでも新鮮な魚を食べることができるのか。」という児童にとって身近な学習問題を設定する。学習問題を解決するために、社会的事象を関連付けた主題図を作成し、さらに水産物を営む人々の工夫を考える「おかげシート」を作成することで、社会的事象の社会における働きや国民にとっての役割を捉えることができるようになる。さらに、社会の一員として、社会的事象の意味を捉えることができるようにするために、児童が切実になる学習問題を設定し、水産業に携わる方へ話を聞く場や、自分の考えを捉え直す場の設定を行うことで、社会の一員として、社会的事象の意味を捉えることができるようにする。

4 単元の指導

(1) 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
我が国の水産業の様子について関心をもち、意欲的に調べようとしている。	我が国の水産業が国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや、今後の水産業の在り方について考えたことを表現している。	地図や地球儀、統計などの資料を活用して、我が国の水産業の様子について必要な情報を集め、ワークシートにまとめている。	我が国の水産業は、自然条件を生かして営まれており、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解することができる。

(2) 単元の指導計画

時	学習活動及び内容	指導上の留意点(評価は◎)	
社会的 事象の 意味を 捉える 段階	1 好きな水産物調べを行う。 2 主題図(水産物の産地)を作成する。 3 児童にとって身近な学習問題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">なぜ私たちはいつでも新鮮な魚を食べることができるのだろうか。</div> 4 学習問題に対する予想を立てる。 5 児童の予想から、次時の学習課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> 事前に集計した水産物に関するアンケートを基に、学級の児童の好きな水産物を紹介し合う活動や、好きな寿司のランキングなどを提示し、水産業についての関心を高める。 資料集を基に、日本の主な漁港と水産物の産地を主題図にまとめるようにする。 スーパーのちらしを切り抜き、世界地図に水産物の産地を貼ることで、世界中から水産物が輸入されていること気付くようにする。 寿司や刺身は日本でよく食べられている料理であり、新鮮さが重要であることや、私たちが水産物をいつでも食べられることから、児童にとって身近な学習問題を設定する。 学習問題に対して自分の生活体験などから予想を立てよう助言する。 ◎日本でいつでも新鮮な魚を食べられる理由について、生活体験などから予想を立てようとしている。(関心・意欲・態度)(ノート) 「日本の周辺でたくさんの魚がとれるから」と予想した児童の発表から、なぜ日本の海ではたくさんの魚が集まるのかを次時に調べることを伝える。 	
	1 日本で食べられている魚の種類が多いことや、漁獲量が世界的に見ても多い事実を確認する。 2 本時の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">なぜ日本の海にはたくさんの魚が集まるのだろうか。</div> 3 日本周辺の海の自然環境に関する資料を基に、主題図(自然環境)を作成する。 4 主題図を基に学習課題について調べ、「おかげシート」にまとめる。 5 新たな資料を提示し、次時の学習課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を振り返り、日本で食べられている魚は約300種類であることや、日本と同様に周辺を海で囲まれているイギリスと比べても漁獲量が多い事実から、学習課題を設定する。 資料を調べ、日本の周辺には暖流と寒流が流れており、海流のぶつかる場所に潮目ができているため、魚のえさとなるプランクトンが集まってくることに気付くようにする。 資料を調べ、潮目だけでなく大陸棚が広がっていることでプランクトンが集まるとやすく、日本の周辺でよい漁場が形成されていることに気付くようにする。 水産物の産地の主題図と、自然環境についての主題図を重ねることで、主な水産物の産地が自然環境と関わりがあることに気付くようにする。 ◎水産物の産地と自然環境とのつながりを考え、表現することができる。(思考・判断・表現)(ワークシート) 神栖のスーパーのちらしを提示し、北海道周辺で水揚げされたサンマが神栖のスーパーで生サンマとして売られていることから、次時の学習課題を設定する。 	
	1 神栖のスーパーで北海道の生サンマが売られている事実を確認する。 2 本時の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">なぜ神栖のスーパーで北海道のサンマを新鮮なまま売れるのだろうか。</div> 3 主題図(輸送の方法)を作成する。 4 主題図や資料を基に学習課題について調べ「おかげシート」にまとめる。 5 新たな資料を提示し、次時の学習につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を振り返り、600km以上離れた北海道のサンマが神栖で新鮮なまま売られていることから、予想を立てられるようにする。 北海道で水揚げされたサンマが何を介して神栖まで輸送されているのか、資料を提示する。 陸路で輸送されると予想した児童の考えや、スーパーへの聞き取り調査などから、北海道で水揚げされたサンマが一度築地に輸送されることに気付くようにする。 高速道路図を基に北海道から築地に輸送されるまでの経路を調べ、さらに築地から神栖までの運輸の道のりを調べることで、運輸の主題図を作成できるようにする。 ◎資料を基に魚の輸送路について主題図にまとめることができる。(技能)(主題図) 高速道路を使うだけでなく冷蔵トラックを使うことで新鮮さを保っていることや、陸路だけでなく魚は空輸されることもあるという資料を提示する。 身近な波崎漁港で水揚げされる魚を予想し、次時の学習につなげる。 	
	1 資料を基に波崎ではイワシ漁やサバ漁がさかんなことを知る。 2 本時の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">なぜ波崎の漁船は半日でたくさんの魚を水あげできるのだろうか。</div> 3 動画を基に学習課題について調べ「おかげシート」にまとめる。 4 新たな資料を提示し、次時の学習につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を振り返り、地元の大漁を祈る祭りの大漁旗の画像の資料から、波崎では昔からイワシ漁やサバ漁がさかんであったことに気付くようにする。 本年度波崎の漁船が半日の漁で235トンのイワシを水揚げしたことから、本時の学習課題を設定する。 波崎の漁業についての動画を提示する。 ◎沖合漁業の工夫を「おかげシート」に記述することができる。(思考・判断・表現)(ワークシート) 波崎で水揚げされた魚は、大半が冷凍加工されているという資料を提示する。 学級の好きな魚についてのアンケートの結果から、マグロが一番人気であることを確認し、マグロがどこで水揚げされるか予想して次時の学習につなげる。 	
	1 作成した主題図を振り返り、マグロの産地を確認する。 2 本時の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">なぜ遠くにいるマグロを日本で食べられるのだろうか。</div> 3 動画を基に学習課題について調べ「おかげシート」にまとめる。 4 新たな資料を提示し、次時の学習につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> 作成した主題図を見て、マグロが日本の太平洋側で水揚げされていることに気付くようにする。 資料を提示し、日本で食べられているマグロが世界中で漁獲されていることや、焼津港はマグロの水揚げが日本一であることに気付くようにする。 焼津港から出港する遠洋漁業船の動画を提示する。 ◎遠洋漁業の工夫を「おかげシート」に記述することができる。(思考・判断・表現)(ワークシート) 沖合漁業だけでなく、遠洋漁業の水揚げ高が減っている統計資料を提示する。 	
	1 沖合漁業も遠洋漁業も漁獲量が減ってきている事実を確認する。 2 本時の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">とる漁業以外で魚をえるには、どんな方法があるのだろうか。</div> 3 和歌山県のマダイの養殖や、茨城県栽培漁業協会のヒラメの栽培漁業について調べ「おかげシート」にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 統計資料などから、200海里の設定により遠洋漁業の漁獲量が減少したことに気付くようにする。 統計資料から、沖合漁業の漁獲量の減少は日本周辺の水産資源の減少が大きな原因となっていることに気付くようにする。 輸入量を増やせばよいという児童の考えを取り上げ、輸入だけでは日本の水産物の消費を支えられないことに気付くようにする。 なぜ沖合漁業が始まったのか、茨城県栽培漁業協会の方の話を聞き考えられるようにする。 ◎つくり育てる漁業の方法や工夫について理解している。(知識・理解)(ワークシート) 	
	1 これまでの学習を基に、これまで書いたおかげシートを見直す。 2 児童にとって身近な学習問題についてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習で書いた「おかげシート」を基に学習問題について考えるよう助言する。 ◎これまでの学習を基に、水産業の社会における働きや国民にとっての役割を考え表現することができる。(思考・判断・表現)(ワークシート) 	
	社会的 事象の 意味を 捉え直す 段階	1 これまでの学習を振り返り、日本の漁業の現状を確認する。 2 考えを交流し、児童が切実になる学習問題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">これから先もいつでも新鮮な魚が食べられるようにするにはどうすればよいのだろうか。</div> 3 必要な資料を収集し、自分の考えをまとめる。 4 グループで意見を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> クラスの児童が書いた好きな水産物のほとんどの資源量が枯渇しつつあることや、輸入している水産物の価格が上昇していることについての資料を提示する。 ここまでの資料から、水産業の未来について切実感をもてたかどうか感想を交流できるようにする。 自分の好きな水産物をこれからも食べられるようにするにはどうすればよいのか、これまで学習した「自然環境」「輸送の方法」とる漁業」「つくり育てる漁業」という視点から見直すことで、資料を基に各自で調べ直すよう助言する。 ◎自分の考えの根拠となる資料を収集することができる。(技能)(ワークシート) グループで意見を交流することで、これから先もいつでも新鮮な魚が食べられるようにするには日本の水産業が何を大切にしていけばよいか考えられるようにする。
		1 水産業に携わる方にインタビューした動画を視聴する。 2 本時の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">水産業に関わる人の話を聞いて、自分たちの考えを見直そう。</div> 3 資料を基に、自分の考えを捉え直す。	<ul style="list-style-type: none"> 地元の漁協、寿司屋、水産加工業に携わる方の話を聞き、これからの日本の漁業が大切にしたい方がよいと思うこと、自分がこれからどう関わることができるのかを考えられるようにする。 グループでの話し合いやインタビューメモを基に、自分の考えを見直すよう助言する。 ◎これからの日本の水産業の将来や自分がこれからどう関わることができるのかについて、水産業に携わる方の意見を基に自分の考えを捉え直すことができる。(思考・判断・表現)(ワークシート)
		1 これまでの学習を基に、児童が切実になる学習問題について考えをまとめる。 2 日本の漁業の未来について自分の考えを記述する。	<ul style="list-style-type: none"> 児童が切実になる学習問題について考えを記述する際、これまで作成した資料を基に考えるよう助言する。 ◎これからの日本の水産業が何を大切にしていけばよいか説明することができる。(思考・判断・表現)(ワークシート) ◎自分が関わることとしてどんなことが考えられるかをまとめようとしている。(関心・意欲・態度)(発言・ワークシート)

6 本時の学習

(1) 本時の目標

◎ これからの日本の水産業の将来や自分がこれからどう関わることができるかについて、水産業に携わる方の意見を基に自分の考えを捉え直すことができる。

(2) 準備・資料

教科書 資料集 水産業に携わる方の話の動画 ワークシート テレビ

(3) 本時の展開

学習活動及び内容	指導上の留意点（評価◎）
<p>1 前時までの話合いの内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの日本の水産業はつくり育てる漁業を進めることが大切だ。 ・自然環境を守ることが大切だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までグループでまとめた内容を何人かの児童が発表し、これまでの学習を確認できるようにする。 ・実際に水産業に携わる方が日本の水産業の将来についてどのように考えているかを問いかけ、児童が予想を立てられるようにする。
<p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>水産業に携わる方の話を聞いて、自分たちの考えを見直そう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を提示し、水産業に携わる三人の方の紹介をする。
<p>3 地元で水産業に携わる方の話の動画を視聴する。</p> <p>(1) 漁協の方の話 (2) 寿司屋の方の話 (3) 水産産加工業の方の話</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業に携わっている方が「どのようなことを大切にして日本の水産業を支えているのか」、「日本の水産業の将来についてどんな思いや願いをもっているのか」という視点を明確にしてから動画を提示する。
<p>4 グループで意見を交流し、それぞれの話の内容をワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動画を視聴し、視点を明確に示したワークシートを活用し、大切なことを聞きもらさないようにする。 ・ワークシートに書かれた内容を友達と交流し、それぞれの方の話の内容をまとめるように助言する。
<p>5 これからの日本の水産業がどんなことを大切にしたらよいか、グループで話し合いまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業に携わる方が、どんなことを大切にしてているのかを考えながらまとめられるように助言する。 ・捉え直した自分の考えをワークシートにまとめられるようにする。
<p>6 本時の学習を通して捉え直した自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の漁船も魚を獲る量を制限している。 ・漁師の高齢化が進んでいるので、もっと若い人に漁師になることが必要だ。 ・地元の寿司屋の方や水産加工業の方が地元の魚を大切にしてることから、地元の魚をもっと大切にすることが必要なのではないか。 	<p>◎ これからの日本の水産業の将来や自分がこれからどう関わることができるかについて、水産業に携わる方の意見を基に自分の考えを捉え直すことができる。</p> <p>（思考・判断・表現）〈ワークシート〉</p>